

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成28年度第4回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	平成29年1月31日（火） 15:30 ～ 17:15		
開催場所	市役所3階 市長応接室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市長 富士谷英正 教育長 日岡昇 教育長職務代理者 八耳哲也 教育委員会委員 高木敏弘 同 久家昌代 同 安倍映子</p> <p>◇職務により出席したもの</p> <p>総合政策部長 青木勝治 教育部長 江南仁一郎 福祉子ども部長 鳥居広子 教育部次長 野村正 教育総務課長 北村美栄子 幼児課長 岡田清久 学校教育課 課長補佐 森 茂次 幼児課副主幹 深井千恵 教育総務課副主幹 武田善雄 政策推進課 課長補佐 太田明文 政策推進課副主幹 夜野友昭 政策推進課主事 田中悠輔</p> <p>◇傍聴者 0名</p>		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部政策推進課 夜野 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

司	会	1. 開会
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴の方へ遵守事項説明 ・ 会議時間の確認（1時間30分を目途に終了）
市	長	2. あいさつ
		<p>あいさつ（概要は以下の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議で、定期的を開催することとなり、今回はその4回目として開催させていただいた。 ・ 前回は、小中学校におけるICT教育の方向性について議論し、ICT教育の必要性は共有するとともに、効果的に取り組む必要があることもあわせて確認した。 ・ 今回は、ICT環境の整備に係る取組の方向性及び就学前教育に関して意見交換したい。
司	会	会議資料確認 → 議事を交替 （議長の富士谷市長による議事進行）
市	長	3. 議題
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の議題確認
		①小中学校におけるICT環境の整備について（意見交換）
事	務	①について説明
局		<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回からの継続案件として意見交換をお願いしたい。 ・ 前回の会議で、ICT教育の必要性について確認したが、多額の費用がかかることが想定されることから、最短の時間、最小の費用で効果的な整備を行うために、今後の取組・スケジュール等について教育委員会から説明していただく。 ・ 前回の、意見交換の内容については資料1をご確認いただきたい。提案内容については資料2をご確認いただきたい。
教育委員会事務局		資料2に基づき説明（概要は以下の通り）
		<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT環境整備は、県内各市町に先駆け、平成21年度から実施してきた。 ・ 整備は、資料2の図に示したすべての設備が対象となる。 ・ これだけの整備を行うには、時間と費用が必要となるため、タブレットパソコン研究校での成果及び課題を含めて検討する必要がある。 ・ このことから、本年度は整備に係る計画を策定し、来年度は、実際使う側の学校現場から意見を集約するために、部会を設置し、全職員への伝達及び効果的な活用について研修・人材育成を行い、全校のコンセンサスを前提に整備設計を実施する。 ・ 具体的な整備を平成30年度から実施できるよう、スケジュールの通り進めたい。
市	長	各委員からの意見を求める

教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> 先週末に県内の先進地である草津市の発表会を見に行った。 発表会ではタブレットの活用に重点を置きすぎた取組だったと思った。タブレットはあくまで教育のツールであり、それをどのように教育へ活用することがベストなのかを、平成 29 年度中に検証したい。 当市でのタブレットパソコンの活用については、研究校が、草津市に負けない取組を行っており、この取組を 1 年間で他校の教員にも浸透させたい。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> I C T の導入は良いと思うが、実際活用するのは現場の先生方である。 現場のモチベーションがついてこないと難しい。教育委員会事務局がどれだけ頑張っても、効率的な活用はできないことは理解しておく必要がある。
委 員 A	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な機器の活用は、先生のやり方ひとつである。 先日、研究校の取組で、体育の授業にて活用されていた事例を見た。とび箱を飛ぶ自分の姿を録画し、それをみんなで共有し、結果が出たときの子どもの顔はとても達成感にあふれていた。 言葉による指導も大切だが、このような取組で、子ども達の意欲を引き出すことは、自身につながり、子ども達の主体的な取組（アクティブラーニング）に直結すると思う。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> このような成果がでるのであれば、いち早く取り組むことが有効であると思われる。
委 員 B	<ul style="list-style-type: none"> 個人的には、先ほど事務局が提案されたペースでよいと思う。いきなり設備投資から始めるべきではないと思う。 研究校での活用方法・成果をまとめていくことが必要であり、取組について学校へ浸透させることが必要である。 教師の本分は子ども達の学力の向上である。そのためにタブレットを効果的に活用することを意識付けすることが必要である。 タブレット等の導入等による指導を各学校に浸透させ、学校別にアクションプランのようなものを作成し、教員の指導を含めた市全体の計画として策定していく手順をとり、平成 30 年度に計画に基づいた予算化をしていくと良いと思う。 可能であれば、研究校で取り組んでいる事例を出前授業のような形で実施すれば予算なしでもできると思う。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 今、委員から話された内容は先の委員とほぼ同じような意見であったので、少し早い意見をまとめる。 I C T 環境の整備を実施する方向性については前回の会議にて確認した。 実施するためには、いくつかの課題を解決する必要がある。 課題を解決しないうちに導入しても効果は薄いため、平成 29 年度はその準備期間とする。いきなり予算化は難しい。

市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この取組については、市民へも学校を通じて問題提起しなければならない。 ・ このことから、平成 30 年度から取組ができるよう、教育委員会を中心に、先ほど事務局から説明のあった方向で、方向性と予算概要をまとめていく。 ・ I C T整備方針は、5年をめどに作成する。取り組んですぐ効果が出るものではなく、じっくり構える必要がある。 ・ なくてはならないものは、学校現場の意見集約であり、全校のコンセンサスを得ることが必要である。 ・ その中で、必要な機器等の選定を行い、平成 30 年度から必要な整備に係る費用を予算化する、という運びになるかと思う。 ・ 少なくとも平成 29 年中には、方向性・予算概要をまとめていくということでもまとめてもよいか。
全員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし
市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それではそのようにまとめさせていただく。
事務局	<p>②就学前教育について（意見交換）</p> <p>②について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議で、教育長からご提案いただき、この場で意見交換することとなった。 ・ このことから、まず保護者のニーズを含めまして、現状を説明いただいた後、意見交換をお願いしたい。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状について資料 3～5 に基づき説明。 ・ 平成 19 年に幼稚園・保育所共通の就学前教育育成指針を策定した（資料 4 がその抜粋）。 ・ 内容としては、2つの基本的な視点、めざす子ども像、そして就学前時期に育てたい力として5つの視点をまとめている。 ・ また、平成 27 年には、子ども・子育て支援に係る新制度を導入、保育の量と質で子育てを支える方針をまとめ、課題を整理し、取り組む方針をまとめている。 ・ 就学前の施設としては、私立の割合が増加しており今後も同様の方向である。 ・ 就学前の子ども達に必要な教育は、遊びを通しての総合的な指導が必要である。幼児教育は、木に例えるなら根っこの部分であり、その教育は保育者・教師の質が問われており、保育者・教師の資質向上が求められている。 ・ 今後の教育・保育の方向性として、平成 30 年度に保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定されることを受けて、保育園・幼稚園等を通じてすべての子どもが健やかに成長するよう、質の高い幼児教育を提供することが求められている。

教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 平成 19 年に策定した育成指針に携わったのは、公立の職員であったが、私立が増加していることから、公立・私立の職員が手を携えて、近江八幡市を担う子ども達をどのように育てるかなど、就学前教育のあり方をともに協議することが必要になっている。 育成指針の改定については、小学校以降の学びにつなげていることを踏まえて、公立・私立の職員だけでなく、小学校の先生とも協議しながら進めていく方向で考えたい。
市長	各委員からの意見を求める
市長	<ul style="list-style-type: none"> 就学前教育の重要性は、各委員ともに、十分理解いただいていると思う。 就学前教育の課題を一言でいうと、どのようなものがあるか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 公立・私立問わず、子ども達の豊かな心を育むことが必要であるという最終目的は変わらないが、その手法や考え方については温度差がある。 このようなことから、市では公立・私立の職員をすべてに研修会を実施しているところであり、市として大切にしたい教育の考えを伝え、共有化している。 今後もこのような連携を重視し取り組んでいきたい。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 最終目的は一緒だが、公立と私立ではそのプロセス・手段が違うということが課題であるということによいか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> その通りである。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 公立と私立の違い等については議論する必要がある。 全国的にみると、都会では私立が多く、地方では公立が多いように思う。また、公立が多い地域では、全国から人材を集めていく私立の取組に対しては批判的であったかと思う。この功罪は意見の分かれるところであると思う。
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> 就学前教育に限らず、まちづくりにおいても官民が連携して公の事業等に取り組む必要があると考えている。 このようなことから保育所等を民間に委託することについては間違っていないと考えており、一方で公立と私立という分け方については疑問を感じている。市立と私立を分類すべきではないかと思う。 市立と私立を比べると、市立のほうが信頼されていると思う。一方で、現在は市立が私立に変わりつつある。 選択肢が限られている中で、保護者は、私立で市立と同じような指導が受けられるかを懸念されているのではないかと思う。 一方で、官の立場でいうと、民間委託した時点で、全て任せているという気持ちになるかと思うが、民間からすると市に対して指導的な関与を求めているところはあると思う。

委員 C	<ul style="list-style-type: none"> このことから、市や教育委員会がリーダーシップをもって市立と私立が情報交換できる場所をつくりあげる仕組みを作るべきであるとする。 この仕組みができ認知されれば、保護者の不安感をすこしでも緩和することができると思うし、他の課題についても解決に繋がるように思う。 以上が私の私見であるが、市長はどのように考えられるか。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 公立ではなく市立と表現するほうがわかりやすいと思った。 過去、私立の学費に対する補助を求めてこられた経過があるが、近年はそのようなことはなくなった。 私立が特色ある教育に取り組んできたことや県内に私立が増加してきたことから、選択肢が増え、保護者自らが選択して私立に通わせているという認識が出てきたためであると思う。
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> 過去の幼児教育を振り返ると、行政は過去、各学区に幼稚園を設置し、地域の子どもは地域が育てるというスタンスにあったと思う。 時代背景が変わり、女性が働く時代となり、市立・私立問わず保育所が増加してきたことで、女性が活躍できるための選択肢が広がってきたことはうれしい状況であると思っている。 しかし、どの施設に入れても、近江八幡市の将来を担う子どもをしっかりと指導できるかという観点が必要であり、保育所・こども園の増加が単なる待機児童解消を目的としたものだけということではいけない。しっかりとした就学前教育を行うことが必要であると思う。 私立の指導者に聞くと、研修の機会がないという声を聞く。市立では当たり前にある環境でも私立にはなく、公私関係なく近江八幡の子ども達を育てる仕組みをどのように作っていくことが必要だと感じた。 これから10年先を見据えた就学前教育を行うためには、指導者の教育は必要であり、そのような仕組みを作り上げることが、小学校中学校へ繋げる地盤づくりになり、子ども達一人ひとりの育ちに繋がると思う。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 研修については、市立だけでなく私立も参加できる仕組みが必要かと思う。私立で研修が少ない理由はわからないが、双方がうまくリンクすることが必要である。
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> 先日視察に行った市立の幼稚園は、昔からよく知っている幼稚園の形態であった。一方、私立のこども園に行ったときには、訪問する前は教育委員の立場で行ってもよいものかを心配したが、丁寧に対応いただき安心した。 幼児教育は、集団の中で友だちと遊び仲間をすることが大切だと考えていたが、こども園ではたまたまかもしれないがプリントを配って学習されていた。

委員 B

- ・ 後ほど園長先生に話を聞くと、幼児教育をどのように行えばよいか、探りながら進めているとお話を伺った。その団体が、もともと保育所からこども園に変わったということもあり、悩みながら指導されている様子がよくわかった。
- ・ 公私関係なく、近江八幡市を担う子ども達を支えることが大切である。
- ・ 私立では、市が掲げている方針にのっとった取組を全て実施しているわけではなく、一方で市立の指導者が受けているような研修を受講する機会がない状態である。せめて、昨年策定した教育大綱を含めて方針を伝えるなど、近江八幡市の考えを浸透させる必要があり、今まさにその時期に来ているように感じる。

市長

- ・ 市立の自由度は低く、私立は自由度が高いといえるかもしれない。教育にこれしかない、という指導法はないので、どちらが良いかということはいえない。
- ・ このことから、保護者に公私どちらがよいかを判断してもらえる情報を出していく必要がある。
- ・ 都会の私立は情報発信が非常にうまい。業（なりわい）として取り組んでいるため、競争も激しい。このため、取組度合いが市立とは違うように思う。

教育長

- ・ 私立のこども園に視察に行った際、朝7時から預かり保育をしていると聞いた。市立では考えられない取組であり、感心した。
- ・ さらに、もっと学習したいという意欲はあると感じたので、年度当初に、市内の就学前教育に関わる方、小学校長等を含めて、市の教育にかかる方針を伝える場所を設けたいと考えている。このことは近江八幡市保育協議会にも依頼したところである。
- ・ 私立の方に聞くと教育大綱を知らない方がいらっしゃる。大綱が活かされていないことが非常に残念である。私立でもそれぞれの取組にうまく活用してもらいたいと考えている。
- ・ 私立では音楽活動を中心に取組まれているところもあるが、毎日の遊びの中での保育は市立の方がうまいと思う。
- ・ 市立・私立互いの良さをうまく交流させることが必要であり、土曜日や夜間を含めて実施できる場所を設けることが必要だと思うので、園長や校長、特に私立の方々にこのことを伝えていきたいと思う。

市長

- ・ 指導者の資格は市立・私立ともに変わらない。
- ・ 公立病院でも、近年診療時間を前倒しで行っている傾向があることを考えると、民間ではさらに自由度が高い取組を行うことができるし、実際実施されている事業所もある。
- ・ つまり、私立は自由度が高いことから、ニーズに対応した取組をすぐに実施することができる。市立で働く指導者の方にも時代の流れを理解した対応をしていただきたいと思う。このようなことから、互いの交流は必要であると思う。

委員 D

- ・ 今までは、幼稚園・保育所ともに市立も私立も両方あり、保護者の立場としては行くところを選べたが、近年は、私立が増え、さらに幼稚園がこども園に変わってきており、選択肢が少なくなりつつあるように思う。
- ・ 確かに、私立の取組は自由度が高く、素晴らしいものではあるが、今まで自分たちが学んできた幼稚園で受けたような指導が受けられなくなることが心配である。
- ・ 先日、視察したこども園では、確か4歳児の教室で、子ども達が机に向かって迷路をしていた。
- ・ 自分の子どもは、幼稚園に通っているが、4歳児にとって、今この取組が必要なのかを疑問に感じた。
- ・ 子どもの担任の先生に、4歳児は体を使った遊びをすることが必要であり、そうしないと5歳児になったときに、身に付けるべき必要な力がつかないと教えていただき、納得した。
- ・ 迷路を友だちと楽しそうに取り組んでいるのであればよいが、見た目ではやらされているように見えて悲しかった。

市長

- ・ みなさんのお話を聞きながら、多くの様々な考えがあり、非常に難しい課題であると改めて感じた。
- ・ 本日の意見交換の内容を簡単にまとめていきたい。
 - ・ 市立、私立分け隔てなく、行政として情報は提供する
 - ・ 私立については、情報を仕入れてもらうために門戸を開いてもらい、自身の取組に取り入れて構築されていけばよい。
 - ・ 私立の特権は、市立に比べて自由度が高いこと。情報をうまく活用すれば、のびしろは非常に多い。
 - ・ 一方、市立は私立の良い取組を吸収する必要がある。
 - ・ 両者ともに保育のプロである。良い意味で切磋琢磨をしていただきたい。これができれば素晴らしい就学前教育が構築できる。
- ・ 市立が研修する際に、私立に声をかけることはできないのか。

教育長

- ・ 問題ない。

市長

- ・ それならば、研修の機会を設け、参加する・しないは私立の判断ということになる。
- ・ 市立は順番に参加するという体制が整っている。ここは、市立の良い点である。
- ・ 複雑多岐にわたる世の中になっているので、この議題は、非常に難しい。本日の意見交換を通じて、もっと時間をかけて行うべきであると思った。有識者を交えるなどして意見交換しても面白いと思う。
- ・ 市立・私立がうまくリンクして就学前教育の在り方を考えていく必要がある。

教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校区単位での交流は活発になっている。 ・ 校区内の私立学校だけでなく、高校も参加して意見交換を行っている。 ・ 校区単位で見ると温度差もあり、足を運んで校長・園長と話をしていく必要があると考えている。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も機会を見つけて個別に話をしたいと思う。 ・ 本件については、みなさんから個別に意見をいただけたと思うので、教育委員会の中で参考にさせていただきたい。 ・ その上で継続した意見交換をさせていただきたいと思う。 ・ そのくらい難しい議題であると認識している。 ・ 本議題については、このような形でまとめてもよろしいか。
全 員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし
事 務 局	<p>③その他について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育振興基本計画の中間見直しについて、前回の会議からの進捗・経過・今後の進め方等について教育委員会事務局より説明をお願いしたい。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 6 に基づき説明。 ・ 前回以降からのスケジュールを主に説明する。 ・ 見直しにあたり、外部組織である中間評価委員会を発足した。 ・ 8名の委員を各種団体から推薦等をいただき就任いただいた。 ・ 第1回委員会を開催し、施策の進捗状況・課題、そして今後の取組展開について報告した。 ・ 2月に2回の委員会を開催し、取組に係る意見を頂戴し、意見をもとに今後5年の計画（後期計画）の素案を提示する予定である。 ・ 骨格部分は概ね変わらないが、昨年策定した教育大綱を踏まえ整合性を図っていく予定である。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 24 年度に計画策定以降新たな課題はどのようなものがあるか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと学習に向けた取組がウイークポイントである。 ・ 委員会からの指摘を申し上げると、スポーツ振興・読書推進等にかかる意見をいただいた。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総括する中で、評価すべき点、解決すべき課題等はなかったか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回目の委員会にて議論していただこうと考えている。
委 員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほどの議論でもあったように、就学前教育の考え方が大きく様変わりしている。市立・私立の連携のあり方についての方向性についてもぜひ取り入れてもらいたい。

教育委員会事務局		<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。検討したい。 	
市	長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それと、少子化の大波が寄せられているので、それに備える取組を盛り込むことが必要だと思う。 ・ また、社会の変化に現在の教育が対応できるかが課題であると考えている。 ・ 先ほど報告があったように、5年間の総括を行い、かつ教育大綱に沿った考え方を盛り込んでもらうことを確認させていただく。 ・ また、就学前教育に対する取組も大きく変化している。このことも課題であると考えるので、委員会の中で議論していただく必要がある。 ・ 立派な教育振興基本計画になることを期待している。 	
市	長	<p>③その他について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員からふるさと学習について報告があるので説明をお願いしたい。 	
委	員	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追加資料に基づき説明。 ・ 前回会議で開催することについて案内した内容について報告。 ・ 参加者には好評で、引き続き実施してもらいたいとの意見が多かった。 ・ ふるさと学習の取組を教員への研修資料として映像化していきたい。また、参加者の対象者を広げて、学習する機会を設けるため、総論としてまとめていきたい。 ・ 課題としては、教員に学んでもらったことを子ども達にどのように伝えていくかということである。他の地域でどのように取り組んでいるかについて調査しながら検討したい。 ・ もう1つの課題として授業の中にどのように取り組んでいくかということである。授業スケジュールは非常にタイトではあるが、今後の何十年にもわたって近江八幡市を支える子どもたちにふるさとを知っていただく取組は必要なもので、総合学習の時間等に盛り込んでいければよいかと考えている。
市	長		<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者はどのように募ったのか。
委	員	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校から1名ずつ選任したふるさと教育担当者に参加していただいた。
市	長		<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと教育担当者は、どのように選任したのか。
教	育	長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育大綱に基づき、ふるさと教育を推進するにあたり、昨年4月に各校から選出してもらうよう依頼した。 ・ 本事業は教育委員の提案で実施したものである。

委員	C	<ul style="list-style-type: none"> 先生が参加しやすいと聞いていた火曜日に設定して開催した。 次回は、夏休みの開催等、さらに参加しやすい日を検討して開催したい。
市長		<ul style="list-style-type: none"> 近江八幡市へ異動されて2,3年の方が望ましいのではないか。これからしばらく勤務される方がよいと思う。 なかなかこれまで取り組めなかったことを実施していただき、一定の成果も出たと思う。 これからも引き続き進めていただきたいと思う。
		4. 閉会
事務局		<ul style="list-style-type: none"> 今回の日程について事務局から連絡。
事務局		<ul style="list-style-type: none"> 次回の会議日程については、後日連絡させていただく。
市長		<ul style="list-style-type: none"> 次回は3月の開催予定か。
事務局		<ul style="list-style-type: none"> 今の予定では、4月の予定である。
市長		<ul style="list-style-type: none"> 3ヶ月に1度の開催であったかと思うが、もう少し期間を短縮して実施しても良いのではないか。また、会議の開催時間も長く時間を取っても良いのではないか。
事務局		<ul style="list-style-type: none"> 開催日時、開催時間については、教育委員会事務局とも調整して検討したい。
教育長		<ul style="list-style-type: none"> 最後に1点お話ししたいことがある。 1月24日の大雪で通学路に支障が出た。中にはけがした子ども達もいる。 自治会を中心に除雪されている学区もあるので、このことについて、各自治会へ対応を依頼してもよいか。
市長		<ul style="list-style-type: none"> 承知した。問題ない考える。 今回の大雪で、市の体制を見直し、対策を講じる必要がある。 幹線道路沿いはよいが、あかこんバスが走行する集落内の除雪ができなかったことから運休することとなってしまった。 交通弱者のための施策なので、策を講じて対応したい。除雪を行える仕組みをつくる必要があると考えている。 温暖化の影響で今後もこのようなことが起こりえるので、それに対応できるよう進めたい。
市長		閉会
		終了 17時 15分